

当院では再生医療の一種である「PRP 療法」を応用した PFC-FD™療法を行っています。

*PFC-FD™は、セルソース株式会社の提供する商標です。

〈PRP 療法とは〉

再生医療の一種である PRP 療法とは、自分の血液から抽出した多血小板血漿（Platelet Rich Plasma: PRP）に含まれる血小板を用いた治療です。

血小板には傷を治す力があり、その過程で成長因子を放出します。この成長因子が周囲の細胞に作用することで、炎症を抑えて傷んだ組織の修復を促すことを期待できます。

この血小板を多く含んだ PRP を患部に注入する治療が PRP 療法です。

〈PFC-FD 療法™とは〉

PFC-FD™療法は、PRP に含まれる血小板から成長因子を抽出しフリーズドライにすることにより利便性を高めた製剤を用いる治療です。PRP 療法が盛んな欧州の学術論文でも報告されており、今注目されている治療法です。

学術論文の URL : <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37380754/>

PFC-FD™療法には、以下のようなメリットとデメリットが考えられます。

【メリット】

- ① 炎症の抑制と組織の修復作用によって、現在行っている保存療法で効果が見られない方でも症状の改善が期待できます
- ② 入院や手術は不要で、日帰りで治療が完結できる身体への負担が少ない治療です。
- ③ 自分の血液から作製するため、副作用の心配が少なく安全性の高い治療です。

【デメリット】

- ① 膝の変形が進んでいる方では効果が低下することがわかっており、すべての方に有効な治療ではありません。
- ② 注射後に、一時的に注射部位の痛みや腫れが起こることがあります。
- ③ 感染症がある場合など、治療できないケースがあります。

治療の内容については、当院が製剤の加工を依頼しているセルソース株式会社が運営する以下の Web サイトもご確認ください。



〈PFC-FD 療法™の対象となる方〉

PFC-FD™療法は「保存療法」と「手術療法」の間に位置する治療です。

これまでの治療法



現在の治療法



当院では、以下のような患者様を PFC-FD™療法の対象としています。

- ✓ 薬物治療や注射で痛みが改善しない方。
- ✓ 治療を行っているもののすぐにひざに水が溜まってしまう方。
- ✓ 手術を希望しない、または今すぐに手術を行うことができない方

ご自身が PFC-FD™療法の対象になるかどうかお知りになりたい方はお問い合わせください。

〈治療の流れ〉

PFC-FD™療法は以下の流れで実施します。



① 診察

医師が診察を行い PFC-FD™療法の対象かどうかを判断いたします。

② 採血

- ✓ 採血量は約 50ml です。PFC-FD™の注入は採血から 3 週間以降となります。
- ✓ 治療内容に関する同意書を確認いただいたうえで患者様のご署名を行っていただきます。
- ✓ 採血後に治療費用をお支払いいただいております。現金でのお支払いのみとなります。

③ 注入

- ✓ 注入にかかるお時間は 10 分程度です。
- ✓ 注入後にそのままお帰りいただけます。
- ✓ 注入日の激しい運動や入浴は控えてください。注意事項は別途ご説明いたします。

④ 注入後

- ✓ 経過観察のため、注入から 1 カ月後に来院をお願いいたします。
- ✓ 治療効果を高めるために、当院では PFC-FD™療法とリハビリテーションの併用を推奨しております。定期的な通院やご自宅でのリハビリテーションをご実施ください。

〈治療費用〉

- ✓ PFC-FD™(2.0) 17 万円 (税込)
- ✓ PFC-FD™ 15 万円 (税込)

PFC-FD™の作成・感染症検査・注入を含んだ治療費用になります。

お問い合わせ先：積善クリニック TEL：0532-65-6565